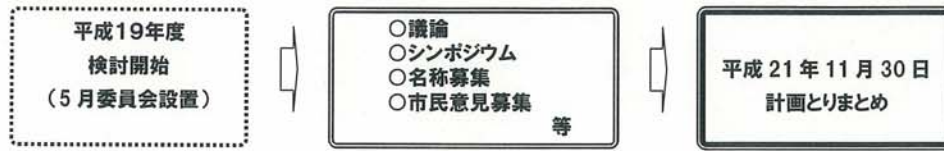


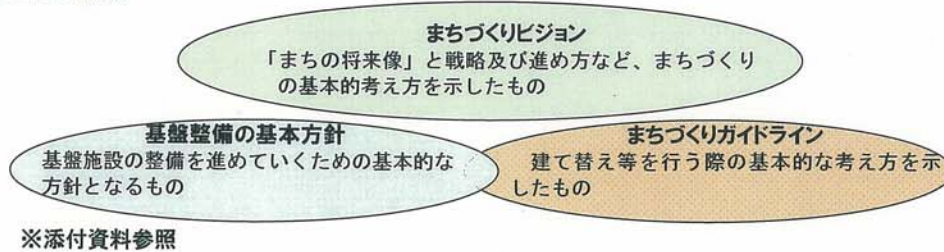
平成 22 年 1 月 20 日
都心部活性化特別委員会
都市整備局

エキサイトよこはま 22(横浜駅周辺大改造計画)について

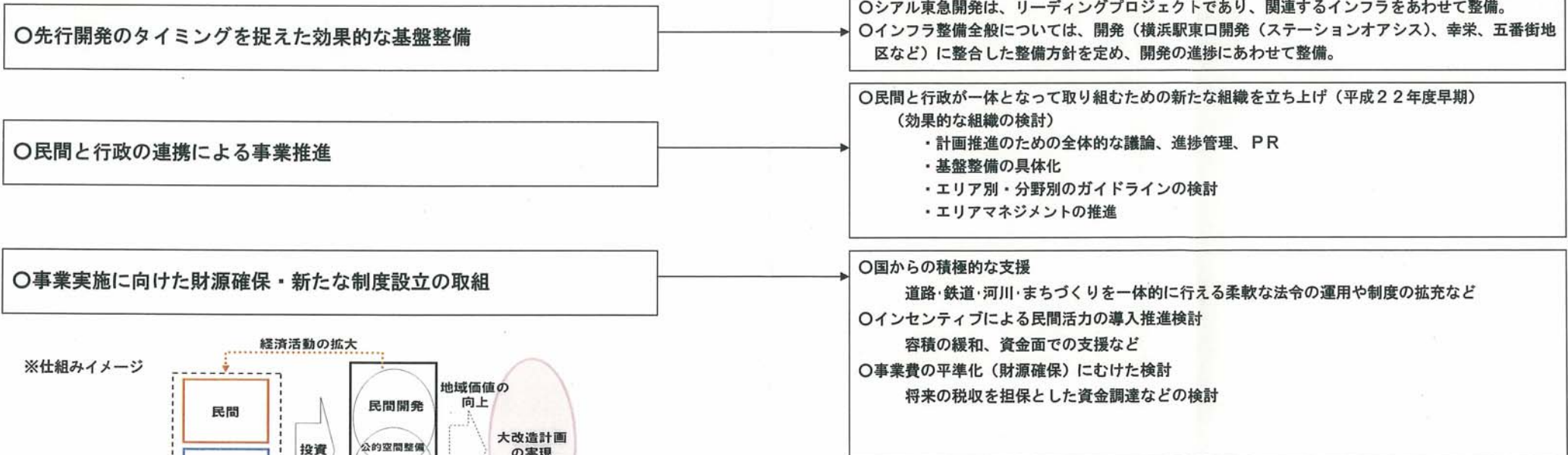
1 計画検討経緯



2 計画の構成



3 計画の実現に向けて



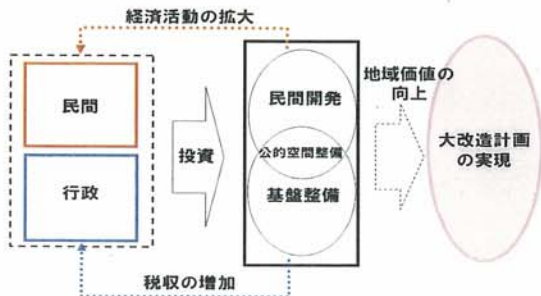
市民意見募集概要

- 実施期間：平成 21 年 10 月 5 日（月）～11 月 4 日（水）
- 周知方法：パンフレット配布（各区役所、地区センター、市立図書館、主要駅PRボックス等）HP、その他説明会
- 提出者数：郵送・FAX・メール 99 人
- 意見数（説明会含む）：490 件
- 主な意見
大半が計画推進を前提にした計画に対する意見・要望。
・ユニバーサルデザイン、安全安心施策の推進、事業の進め方のほか、歩行者空間に関するご意見を多くいただいた。

名称募集概要

- 募集期間：平成 21 年 8 月 10 日（月）～9 月 30 日（水）
- 応募結果：応募人数 1487 名、応募総数 2380 案
- 決 定：平成 21 年 11 月 30 日（月）第 13 回横浜駅周辺大改造 計画づくり委員会による選考
- 決定名称：エキサイトよこはま 22

※仕組みイメージ



まちづくりビジョン まちづくりの戦略から基盤整備の基本方針・まちづくりガイドラインへの展開

◆ 基盤整備の基本方針への展開

◆ まちづくりビジョン まちづくりの戦略

◆ まちづくりガイドラインへの展開

施設整備の基本方針	
駅・鉄道	
<ul style="list-style-type: none"> ・駅構内の鉄道乗換利便性向上 ・ユニバーサルデザインの推進 ・横浜駅を中心とした多方面へのアクセシビリティ強化 	
駅前広場	
○駅前広場の再編	
<ul style="list-style-type: none"> ・東口の空港アクセス機能を強化 ・西口の駅前広場機能を強化 	など
○駅前広場の整備	
<ul style="list-style-type: none"> ・バス、タクシーの駅との近接性の重視 ・歩行者動線の円滑化 ・玄関口にふさわしい景観形成 	など
歩行者空間	
<ul style="list-style-type: none"> ・立体的な歩行者ネットワークの構築 ・通りの個性を活かした魅力的な歩行者空間の創出 ・ユニバーサルデザインの推進 	
自転車関連インフラ	
<ul style="list-style-type: none"> ・安心・快適な自転車走行環境の確保 ・駅東西を結ぶ自転車ルートの検討 ・放置自転車対策の強化 	
道路	
<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺の骨格となる道路の整備 ・開発に伴い混雑が見込まれる箇所の改良 	
駐車場	
<ul style="list-style-type: none"> ・センターゾーンの外側に、方面別の駐車場・駐車場出入口を配置 ・センターゾーンを中心とした駐車場間の接続や連携強化による駐車場の一体化 	
治水	
<ul style="list-style-type: none"> ・河川、下水道、まちづくりが連携した浸水対策 ・将来の温暖化に備え、長期的・広域的対策検討 	
親水	
<ul style="list-style-type: none"> ・地区特性に応じて親水拠点や遊歩道等を整備 ・水を身近に感じる駅を演出するため、駅から水辺へのアプローチ空間等を整備 	
環境	
<ul style="list-style-type: none"> ・先端的で革新的な環境インフラ ・広域的なエネルギーネットワーク構築の検討 	
防災	
<ul style="list-style-type: none"> ・公共空間の活用、既存施設内の受け入れ協力、新規開発などによる滞留スペースの確保 ・ユニバーサルデザインにも配慮した災害時・緊急時情報伝達システムの構築 	

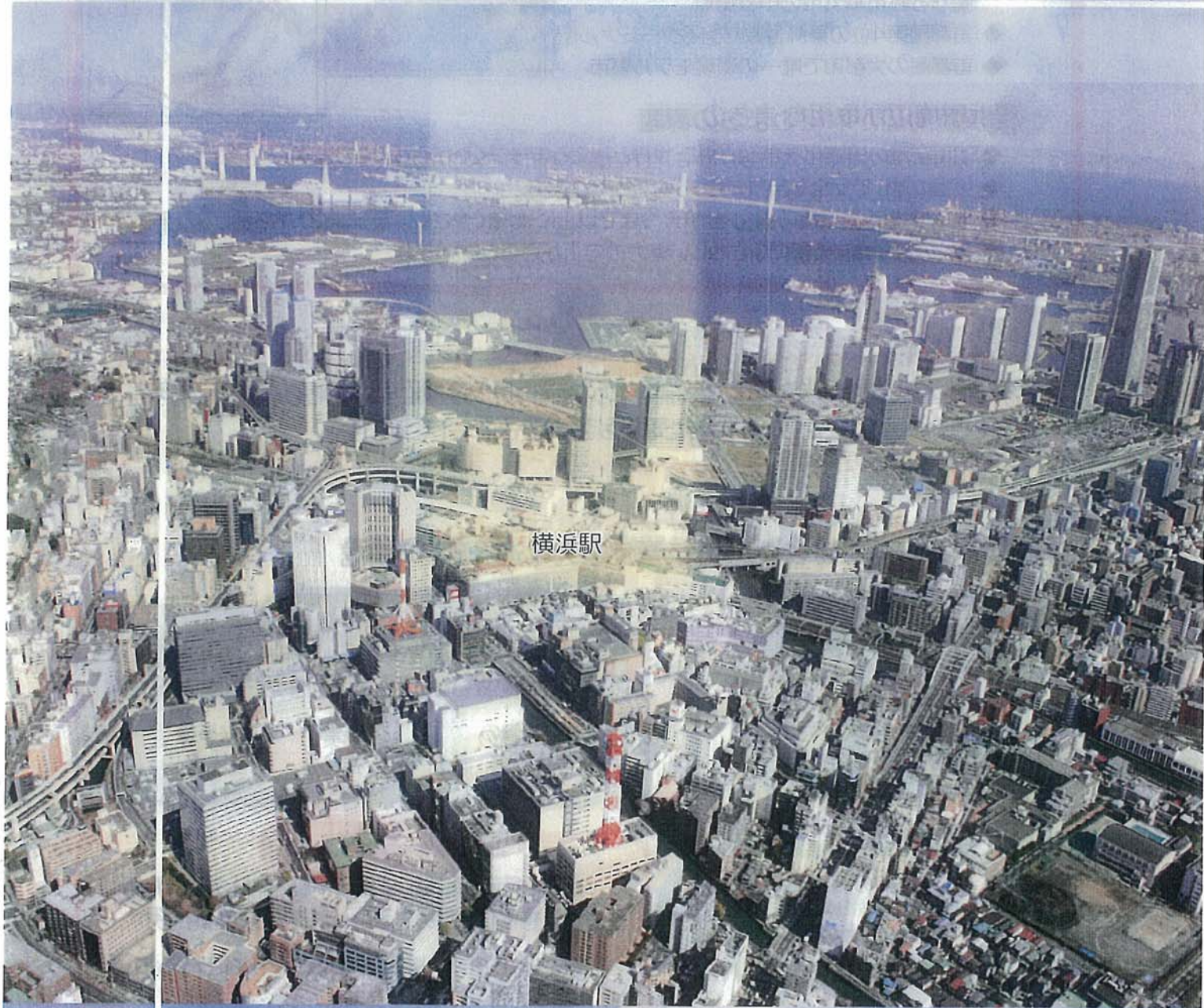
1. 横浜中心戦略 ~アジアの交流センターに向け、新たな開港~
<ul style="list-style-type: none"> ○羽田空港への近接性を活かし、世界と結ばれた都市活動・交流拠点の形成 ○国際都市横浜の玄関口の形成 ○魅力ある生活・文化創造拠点の形成
2. 環境創生戦略 ~横浜発・環境で世界をリード~
<ul style="list-style-type: none"> ○エネルギー効率の向上と環境負荷の低減 ○水と風と緑を感じ、うるおいのあるまちづくり ○まちぐるみでの取組みによる良好な環境形成
3. 安全安心戦略 ~誰もが安心して集える場へ~
<ul style="list-style-type: none"> ○民間と行政が連携・協力した都市防災機能の強化 ○まちの力を活かせる「安全・安心」の体制づくり
4. 感動空間戦略 ~忘れられないシーンを演出~
<ul style="list-style-type: none"> ○横浜の玄関口にふさわしい都市景観の創出 ○各地区の特徴を活かした、横浜らしさを感じることができる景観の形成
5. 悠々回遊戦略 ~ハマ時間を満喫できる界隈の創造~
<ul style="list-style-type: none"> ○駅東西が一体となる回遊性の向上 ○歩きやすく、わかりやすい歩行者空間の形成 ○個性と魅力が感じられる「通り」の創出
6. 交通転換戦略 ~公共交通の利用促進~
<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な交通結節機能の強化 ○公共交通を優先した交通施策の展開 ○歩行者と自動車の錯綜の解消
7. 協働共創戦略 ~みんなで作くり、はぐくむ~
<ul style="list-style-type: none"> ○まちづくり推進組織とプラットフォームの形成 ○地元主体のエリアマネジメント ○活動と成果・検証等の循環によるまちの価値向上
重点的なプロジェクト
<ul style="list-style-type: none"> ○世界に誇れる駅プロジェクト ○交通転換・拡充プロジェクト ○水のまちプロジェクト

まちづくりの基本方針		まちづくりの基準	
土地利用・空間形成方針		駅×街空間（駅及び直近部）	
<ol style="list-style-type: none"> 1 「アジアの交流センター」としての都市機能強化 2 拠点にふさわしいまちの骨格形成 		<p>ア. 都市機能の導入・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際都市の中心にふさわしい、おもてなしの機能、安全・安心で便利な生活のための機能の集積 	
環境形成方針		イ. 環境配慮・創出の取組み	
<ol style="list-style-type: none"> 1 環境モデル都市にふさわしいエネルギー対策による低炭素型のまちづくり 2 水・緑・風を活用した環境形成 3 公共交通利用転換と低環境負荷車両利用促進 		<ul style="list-style-type: none"> ・他地区のモデルとなるエネルギー対策、環境意識啓発促進に寄与する取組みの実施 	
防災・防犯方針		ウ. 防災の取組み	
<ol style="list-style-type: none"> 1 安全・安心なまちづくり 2 民間と行政の協働による基盤整備と安全・安心体制づくり 		<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時の一時滞留者・帰宅困難者への対策 ・浸水被害に対する対策の官民協働での実施 	
景観形成方針		エ. 都市景観の形成	
<ol style="list-style-type: none"> 1 印象的で魅力ある都市景観の創出 2 河川空間や路面の賑わいなど個性ある景観の創出 		<ul style="list-style-type: none"> ・交通結節空間、歩行者空間・親水空間、建物群像において、『ドラマ性の感じられる都市景観』を形成 	
歩行者ネットワーク形成方針		オ. ターミナルコアの整備	
<ol style="list-style-type: none"> 1 立体的な歩行者ネットワーク構築と魅力ある通りの整備 2 環境豊かな親水空間ネットワークの形成 		<ul style="list-style-type: none"> ・駅と街とを円滑に結ぶ、魅力的なターミナルコアの整備 	
交通環境形成方針		歩行者空間	
<ol style="list-style-type: none"> 1 駐車場整備のルールをつくり、適正な配置や周辺駐車場との連携等を促進 2 荷捌車両適正化による人と環境にやさしい空間形成の支援 3 官民が一体となった、快適で移動しやすい自転車利用環境の創出 		<ul style="list-style-type: none"> ・利便性が高く、魅力的な歩行環境・通りの形成 ・駅周辺を円滑にわかりやすく結ぶネットワークの形成 ・憩いのある魅力的な通りづくり ・誰もが利用しやすいユニバーサルデザインに配慮した空間づくり 	
持続可能なまちづくり		親水空間	
<ol style="list-style-type: none"> 1 まちの価値向上の仕組みづくりと実践的なまちづくり 2 既存組織と連携した議論や活動、成果検証によるまちの価値向上 		<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある親水空間の創出 ・主要な親水拠点において、その特性に応じた特徴ある空間づくり 	

暫定版

概要版

エキサイトよこはま 22



横浜駅

本計画は、国際化への対応・環境問題・駅としての魅力向上・災害時の安全性確保などの課題を解消し、「国際都市の玄関口としてふさわしいまちづくり」を進めるための指針となる計画です。学識経験者や地元の協議会・事業者、関係行政機関などで構成される「横浜駅周辺大改造 計画づくり委員会」等を開催し、概ね 20 年後のあるべき姿を探りながら議論を重ね、策定されました。

平成 21 年 12 月
横浜駅周辺大改造 計画づくり委員会

横浜駅周辺の位置づけ

「国際都市横浜の玄関口として
国際競争力のあるまち」

- ◆ 国際化される羽田空港などにつながる、アジアを中心とした国際交流拠点
- ◆ 首都圏南西部の要衝・日本第二位の人口を擁する都市横浜市の中核拠点
- ◆ 首都圏第4位の乗降客数を誇るターミナル駅
- ◆ 首都圏の大都市で唯一の環境モデル都市

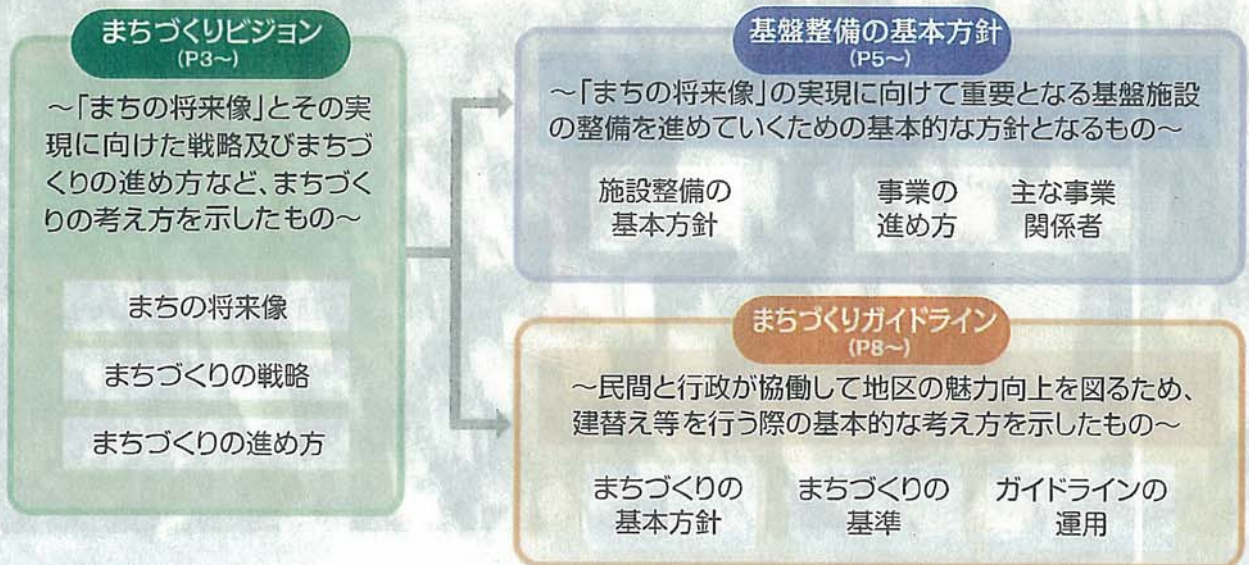


横浜駅周辺が取り組むまちの課題

- ◆ 羽田空港の国際化をきっかけに、世界と競えるまちづくりが必要となります。
- ◆ 災害に対して安全なまちづくりが必要となります。
- ◆ 地球環境・地域環境の悪化を防ぎ、今まで以上に環境にやさしいまちづくりが必要となります。
- ◆ 多くの人が集まる駅にふさわしい魅力の向上が必要となります。

横浜駅周辺が、世界の人々の交流拠点となり、国際都市の玄関口にふさわしい魅力に満ちた、安全で誇れるまち、となるための新たなまちづくりをスタートさせます

エキサイトよこはま22（横浜駅周辺大改造計画）の構成



「エキサイトよこはま22」は、一般公募により選ばれた計画名です。

22世紀を志向した横浜駅周辺の、とってエキサイトするまちづくりを目指すものです。駅のそばや平成22年度からスタートするといった意味も込められています。

この冊子は、エキサイトよこはま22(横浜駅周辺大改造計画)の概要をまとめたものです。

計画全体については、右記ホームページでご覧になれます。 <http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/tosai/daikaizou/>

まちづくりビジョン

～まちの将来像とその実現に向けた戦略及びまちづくりの進め方など、まちづくりの考え方を示したもの～

まちの将来像

まちづくりの戦略

まちづくりの進め方

まちの将来像

世界から人々をいざなう
『選ばれるまち』

世界の人々から選ばれる機能と性能を備えた横浜都心の玄関口にふさわしい国際競争力を持ったまち

心地よく、心に残る
場面にあふれた
『魅了するまち』

まち全体がユニバーサルデザインに配慮され、全ての人の人にとっても快適で、まちの中に印象的な空間があり、いつ来ても心が満たされる豊かな時間を過ごせるまち

まちに関わる
すべての人が
『誇りに思うまち』

まちに関わる人が主役となり、考え、つくり、育て、みんなが自慢したくなる、ブランド力をもったまち

まちづくりの戦略

P4に示す、7つの戦略を踏まえ、本計画実現に向けて重点的に取り組むプロジェクトとして、駅を中心とした「コア」※において展開される「世界に誇れる駅プロジェクト」を柱に、それを下支えする「交通転換・拡充プロジェクト」と「水のまちプロジェクト」を展開していきます。

※コアとは、国際都市横浜の顔にふさわしい空間・機能・環境の整備を一体的に進める駅とその隣接街区です。

重点的なプロジェクト

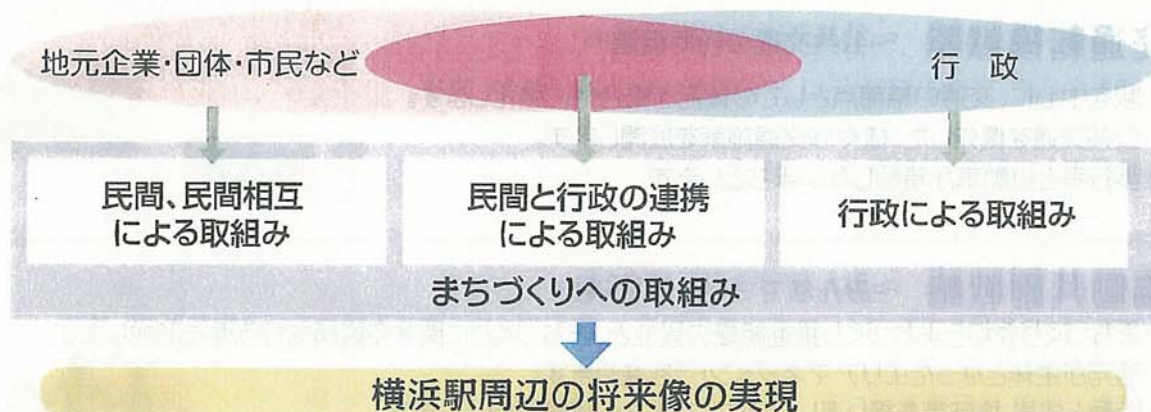
世界に誇れる駅プロジェクト

交通転換・
拡充プロジェクト

水のまち
プロジェクト

まちづくりの進め方

まちづくりに関わる主体の連携・協働及び市民参画によるまちの将来像の実現



まちづくりビジョン

まちづくりの戦略

1 横浜中心戦略 ～アジアの交流センターに向け、新たな開港～

- 羽田空港への近さを活かし、世界と結ばれた都市活動交流拠点を形成します。
- 国際都市横浜の玄関口を形成します。
- 首都圏における重要な広域拠点としての都市機能を向上します。
- 魅力ある生活・文化が創造されるまちを形成します。



2 環境創生戦略 ～横浜発・環境で世界をリード～

- まちの機能更新に伴って、エネルギー効率を向上し、同時に環境負荷を低減します。
- 水と風と緑を感じられ、うるおいのあるまちづくりを進めます。
- まちぐるみの取組みによって良好な環境を形成します。



3 安全安心戦略 ～誰もが安心して集える場へ～

- 民間と行政が連携・協力しながら都市防災機能を強化します。
- まちの力を活かし、まち全体で「安全・安心」な体制をつくります



4 感動空間戦略 ～忘れられないシーンを演出～

- 横浜の玄関口にふさわしい都市景観を創出します。
- 水辺や通りなど、各地区の特徴を活かした、横浜らしさを感じることでできる景観を形成します。



5 悠々回遊戦略 ～ハマ時間を満喫できる界限の創造～

- 駅を中心に駅東西の行き来を円滑にして、駅周辺を一体的に楽しめるようにします。
- 全ての人々が、歩きやすく、わかりやすい歩行者空間を形成します。
- 横浜駅周辺ならではの個性と魅力が感じられる「通り」を創出します。



6 交通転換戦略 ～公共交通の利用促進～

- 駅を中心に、交通の結節点としての機能を総合的に強化します。
- 公共交通を優先した、様々な交通施策を展開します。
- 歩行者と自動車が錯綜しないまちとします。



7 協働共創戦略 ～みんなでつくり、はぐくむ～

- まちづくりを担うまちづくり推進組織の設立と、まちづくりに関する議論を行う場を形成します。
- 地元が主体となったエリアマネジメント*を進めます。
- 活動と成果・検証等を繰り返し行うことでまちの価値を向上します。

*エリアマネジメントとは、一定のまとまり(エリア)において、更なる連携を図り、地域の課題解決や地域価値の向上等に取組み、地域の特性を表現した魅力あるエリア(地域)としてマネジメント(運営)していく活動のことです。



基盤整備の基本方針

～将来像の実現に向けて重要となる基盤施設の整備を進めていくための基本的な方針となるもの～

施設整備の基本方針

事業の進め方
主な事業関係者



施設整備の基本方針

1 駅・鉄道

- ・ 駅・鉄道の利便性向上
- ・ ユニバーサルデザインの推進
- ・ 横浜駅を中心とした多方面へのアクセシビリティ強化



2 駅前広場

- ・ 空港アクセスの強化(東口) ・ 横浜駅の玄関口にふさわしい景観形成
- ・ 地域の交通結節の拠点機能の強化(西口) ・ 観光ターミナルの形成
- ・ 駅前広場と幹線道路とのアクセシビリティの向上



3 歩行者空間

- ・ デッキ、地上、地下レベルで構成される立体的な歩行者ネットワークの構築
- ・ 「通り」の個性を活かした魅力的な歩行者空間の創出
- ・ ユニバーサルデザインの推進



4 自転車関連 インフラ

- ・ 安心・快適な自転車走行環境の確保
- ・ 駅東西を通過できる自転車ルートの検討
- ・ 放置自転車対策の強化



5 道 路

- ・ 幹線道路の整備・機能強化による大改造エリア内の通過交通の転換促進
- ・ 駅周辺の骨格となる道路の整備
- ・ 開発に伴い混雑が見込まれる箇所の機能強化

6 駐車場

- ・ センターゾーン※1の外側に、方面別に駐車場・駐車場出入口を配置
- ・ センターゾーンを中心とした駐車場間の接続や連携強化による駐車場の一体化
- ・ 駐車場への円滑なアクセス動線を考慮した道路整備



7 治 水

- ・ 河川、下水道、まちづくりが連携した浸水対策
- ・ 将来の温暖化に備え、長期的・広域的対策検討

8 親 水

- ・ 地区特性に応じて、親水拠点や遊歩道等の整備
- ・ 水を身近に感じる駅を演出するため、駅から水辺へのアプローチ空間等の整備

9 環境インフラ

- ・ 首都圏の他地区・他地域のモデルとなる環境インフラの整備
- ・ 広域的なエネルギーネットワーク構築の検討



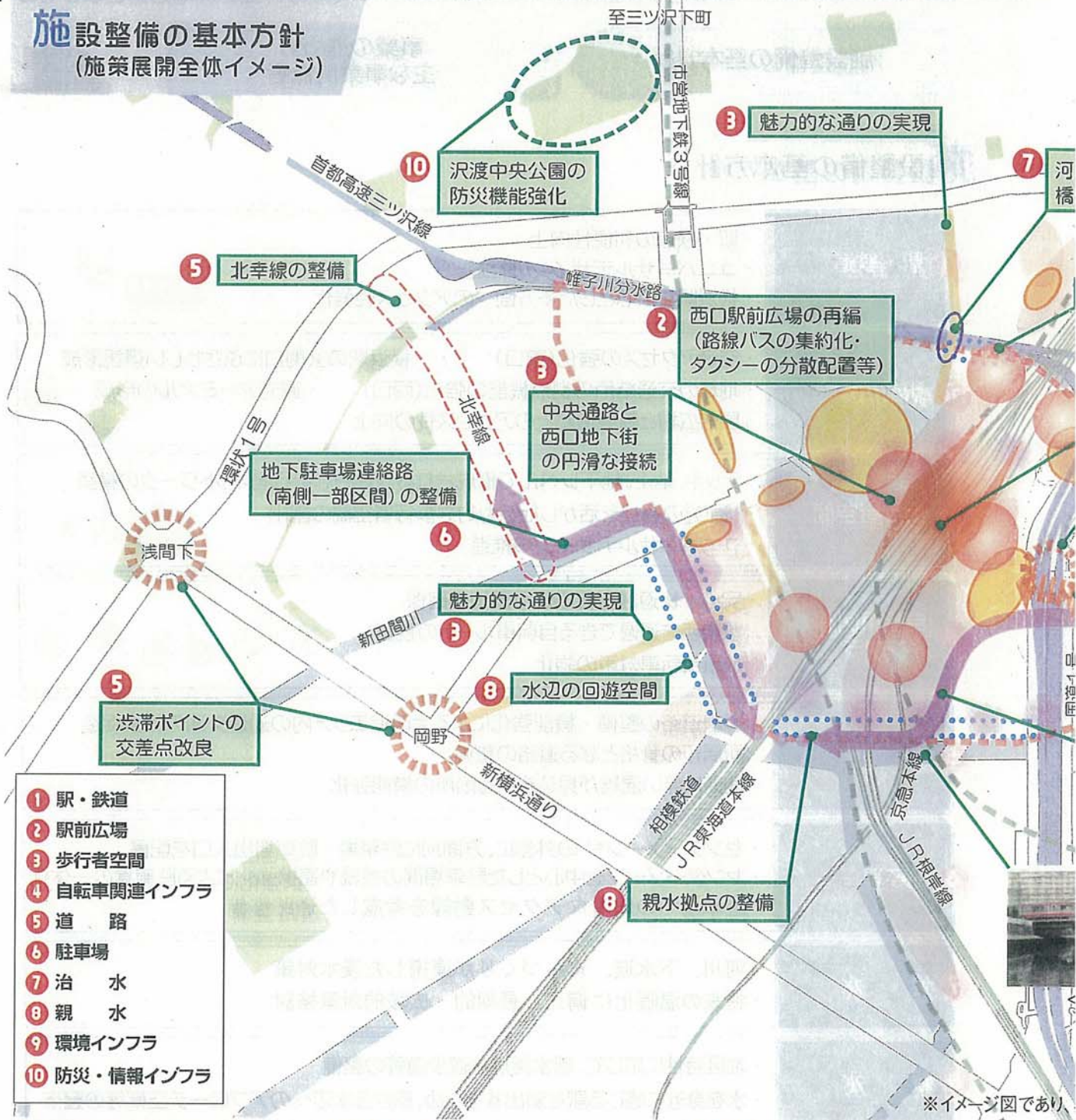
10 防災・情報 インフラ

- ・ 災害時における滞留スペースの確保
- ・ 帰宅支援の仕組みづくりや避難経路の確保
- ・ ユニバーサルデザインに配慮した災害時・緊急時情報伝達システムの構築

※1→P8 参照

基盤整備の基本方針

施設整備の基本方針 (施策展開全体イメージ)



- ① 駅・鉄道
- ② 駅前広場
- ③ 歩行者空間
- ④ 自転車関連インフラ
- ⑤ 道路
- ⑥ 駐車場
- ⑦ 治水
- ⑧ 親水
- ⑨ 環境インフラ
- ⑩ 防災・情報インフラ

上記以外の主な取組み

「駅・鉄道」

- ◆ 乗換利便性の改善
- ◆ バリアフリー施設の拡充
- ◆ 横浜駅を中心とした多方面へのアクセス性強化

「歩行者空間」

- ◆ ターミナルコアの形成
- ◆ 歩行者空間のバリアフリー化

「自転車関連インフラ」

- ◆ 主要な自転車ルートにおける走行環境改善と東西横断ルートの検討

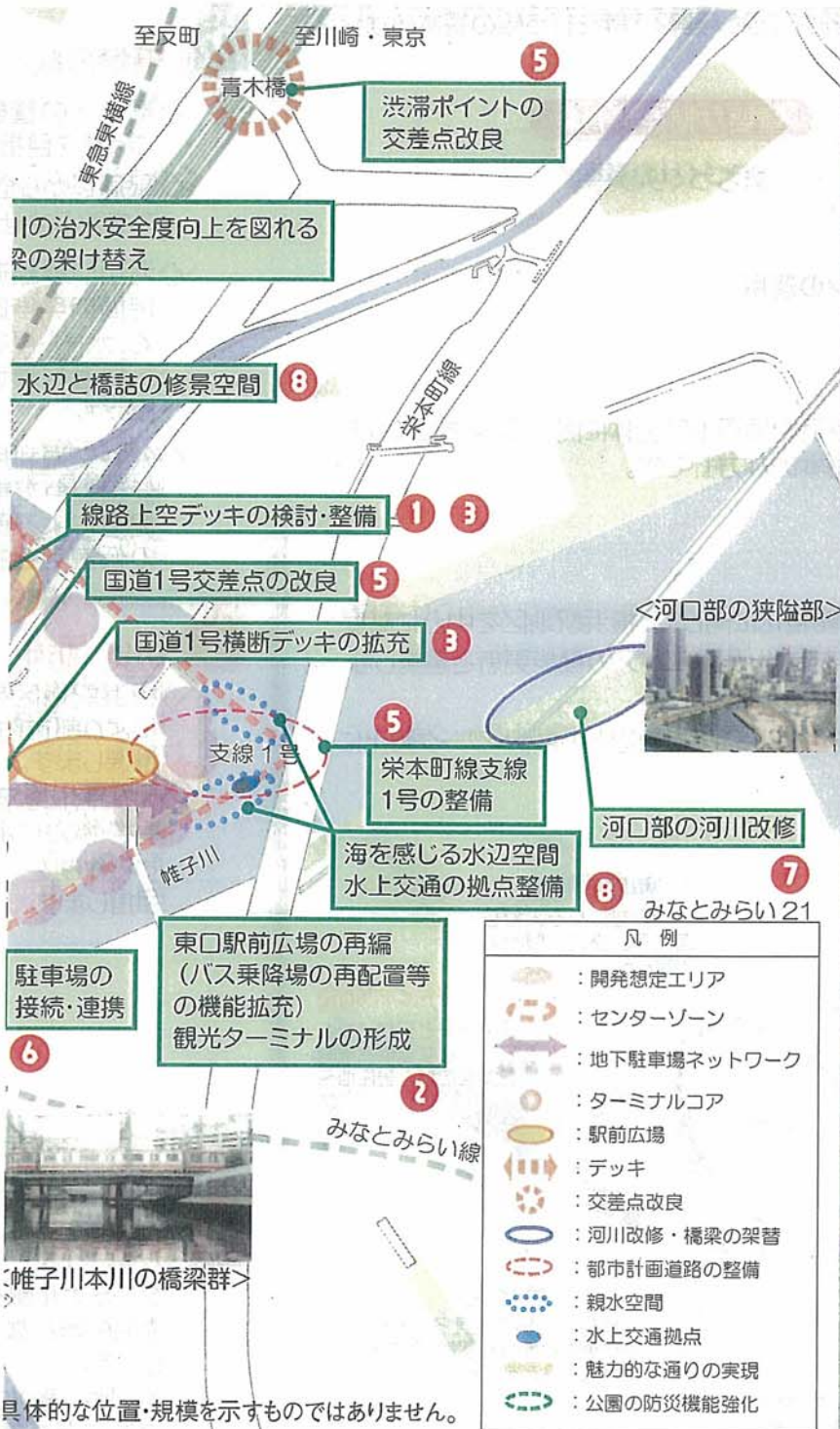
「治水」

- ◆ 開発にあわせた橋梁架け替え
- ◆ 公共空間における貯留管の整備や開発に伴う敷地内貯留施設の設置
- ◆ 開発にあわせた地盤高上げや止水板の

「親水」

- ◆ 海と川をつなぐ水上交通の検討
- ◆ 河岸的な親水空間を実現するため、水質改善方策を検討

※イメージ図であり



具体的な位置・規模を示すものではありません。

「環境インフラ」

- ◆ 地域冷暖房施設の供給ネットワークの構築
- ◆ 街路樹の整備、緑地・広場等の拠点的な緑の整備

設置

「防災・情報インフラ」

- ◆ 情報伝達システム整備
- ◆ 船舶やバス等を利用した代替交通手段の検討

専門の方策を検討

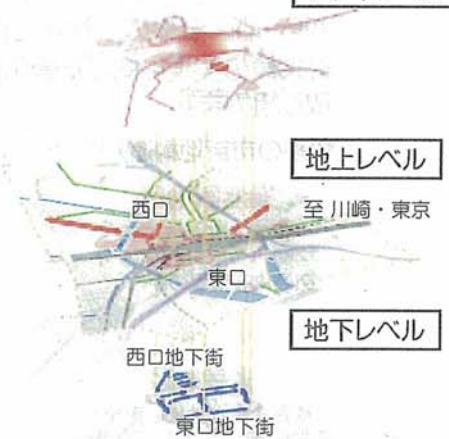
ターミナルコアとは

ターミナルコアとは人が多く集まる場所でデッキ・地上・地下を分かりやすく結びつけることによって円滑に移動でき連続した回遊性や賑わいを創出する象徴的な結節空間です。



立体的な歩行者ネットワーク

デッキレベル



- ← 魅力的な通りの実現 (Realization of attractive streets)
- ← 東西横断デッキ (East-West crossing deck)
- ← 歩行者ネットワーク (Pedestrian network)
- ⇄ 地下街への動線 (Movement lines to underground mall)
- ターミナルコア (Terminal core)
- 開発想定エリア (Development target area)

事業の進め方・事業関係者

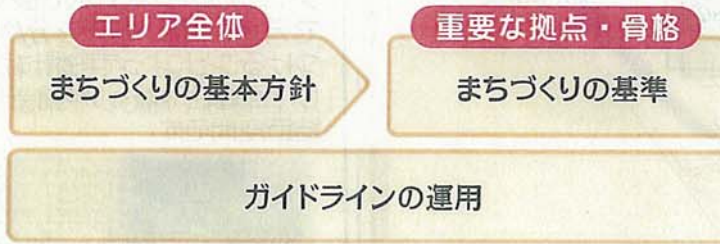
地区内で順次起こる開発に合わせて、民間と行政が連携して、段階的に整備を進めていきます。

主な事業関係者

- 国 (National Government)
- 神奈川県 (Kanagawa Prefecture)
- 横浜市 (Yokohama City)
- 鉄道事業者 (Railway operators)
- 開発事業者 (Development operators)

まちづくりガイドライン

～民間と行政が協働して地区の魅力向上を図るため、建替え等を行う際の基本的な考え方を示したもの～



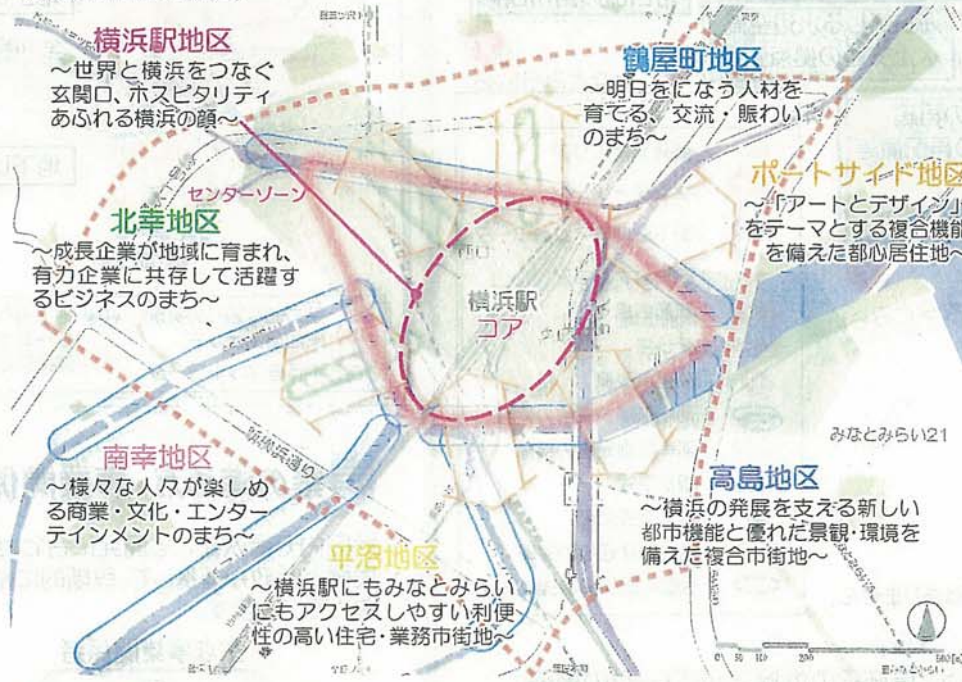
まちづくりの基本方針

横浜駅周辺地区全体に関する、まちづくりの基本的な方針です。

1 土地利用・空間形成

- ◇アジアの交流センターとしての機能強化に向けて、横浜駅地区を中心に高度利用及び特徴的機能の誘導・集積を進め、周辺エリアの機能更新と連携しながら、地区全体の活性化を促進します。
- ◇将来像の実現に向けた骨格形成を目指し、コアと周辺とのネットワーク強化に取り組みます。

〈将来の市街地構造〉



- 高次都市機能が集積し、高度かつ立体的な土地利用によるセンターゾーンの形成
- センターゾーンを包み、親水性の高い、魅力ある市街地をつくる水辺空間
- 「ターミナル」としての横浜駅とその隣接街区の機能強化（コアの形成）
- コアと周辺、隣接地区（みなとみらい21地区等臨海部、内陸）との連携強化
- 個性的な通り空間の形成
- 海及び臨海部と内陸部とをつなぎ人や空間の新しい流れを形成

※センターゾーンとは、交通施設整備や商業・業務施設の集積を中心に、高度利用を図るエリアのことで、重点的に戦略等に取組んでいく、横浜駅周辺大改造の中核となるエリアとなります。

2 環境形成

- ◇環境への積極づくりを目指し
- ◇駅周辺から全体みを波及させ、
- ◇河川や幹線道民間開発街区で、水・緑・風を、た快適な環境します。
- ◇公共交通利用低環境負荷車促進による環境の低減を目指

3 防災・防犯

- ◇横浜駅地区をにより都市防災推進します。
- ◇大災害による連携協力による体制を目指す。

4 景観形成

- ◇ターミナル駅と横浜の顔となります。
- ◇河川や、通りにマ風などの景観形成を目指し、魅力ある空間の



的な取り組みと、それを支援する仕組み
ます。

地区にエネルギーに関する先導的取組
炭素型のまちづくりを進めます。

各自治体、
こおい
舌用し
を形成

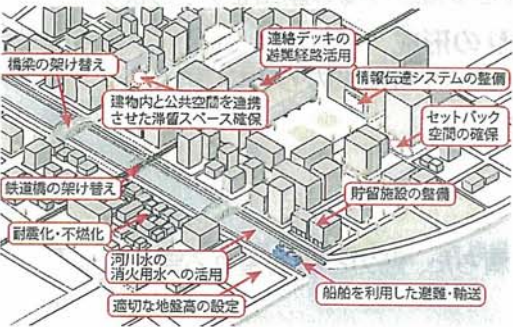
〈風の流れを意識した空間整備ゾーン〉

広換と
可利
負荷
ます。



中心に浸水対策や滞留スペースの確保等
機能を強化し、安心安全なまちづくりを

被害を最小限におさえるため、民間と行政の
基盤整備や、安心安全のまちづくりを実現



てのゲート性や活力を活かすなど 新しい
印象的で魅力ある都市景観の創出を目指

する空間などにおいては、水、緑、光、八
資源を有効に活用し、横浜ならではの景
ます。

形成イメージ



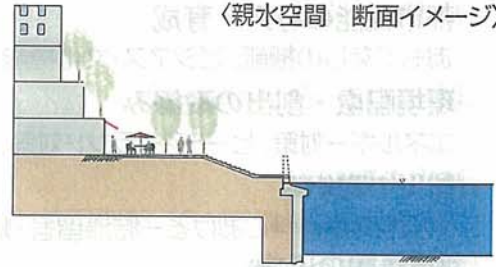
5 歩行者ネットワーク形成

◇コアの開発と連携し、建物内通路やターミナルコアの創出
により主要な歩行者ネットワークの充実を図ります。

◇建物の壁面後退や空間演出などにより、沿道建物と一体とな
った魅力的な通りの整備を進めます。

◇水辺周辺の開発と連携し、場所毎の特色ある水辺空間づく
りを進めます。

〈親水空間 断面イメージ〉



6 交通環境形成

◇個別開発を行う際、適切な「駐車場マネジメント」を行う
ことを条件に、弾力的かつ効率的な駐車場整備が可能と
なる「駐車場整備ルール」の適用を認めます。

◇荷捌き車両の適正化により、人と荷捌き車両の錯綜しない
歩行環境をつくります。

〈サイクルシェアリングのイメージ〉

◇開発に合わせた駐
輪場等の確保や自
転車利用マナーの
啓発等により自転
車の利用しやすい環
境をつくります。

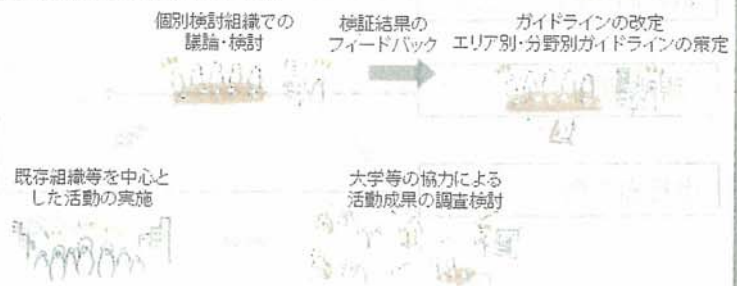


7 持続可能なまちづくり

◇まちづくりの推進のための組織体制の確立を目指します。

◇既存組織を中心としたまちづくり活動の実施とその後の
検証により、まちの価値を向上させるしくみの確立を目指
します。

〈活動と成果の検証イメージ〉



まちづくりガイドライン

まちづくりの基準

横浜駅周辺地区の中でも、主要な拠点・骨格に関するまちづくりの基準です

駅×街空間

「駅×街空間」とは、市街地構造として重要な拠点である「コア」における、駅及び駅直近街区が融合した“横浜”の玄関口として象徴的な空間を示すものです。

●都市機能の導入・育成

おもてなしの機能、ビジネス・文化機能、安全・安心で便利な生活のための機能の集積

●環境配慮・創出の取組み

エネルギー対策、ヒートアイランド対策、環境意識啓発促進に寄与する取組みの先導的な実施

●防災の取組み

大災害発生直後における一時滞留者・帰宅困難者への対策、浸水被害に対する対策の官民協働での実施

●都市景観の形成

多様なシーンが展開し、ドラマ性の感じられる都市景観の形成

●ターミナルコアの整備

駅と駅、駅と街とを円滑に結び、魅力的なターミナルコアの整備

歩行者空間

歩行空間の快適性と地区相互の結びつきを高め、個性と魅力を満喫できる回遊の場の創出をすすめます。

●利便性が高く、憩いの感じられる、魅力的な歩行環境・通りの形成

ユニバーサルデザインに配慮した、コアと周辺を地下、地上、デッキレベルで円滑にわかりやすく結ぶネットワークの形成と地上部における魅力的な通りづくり

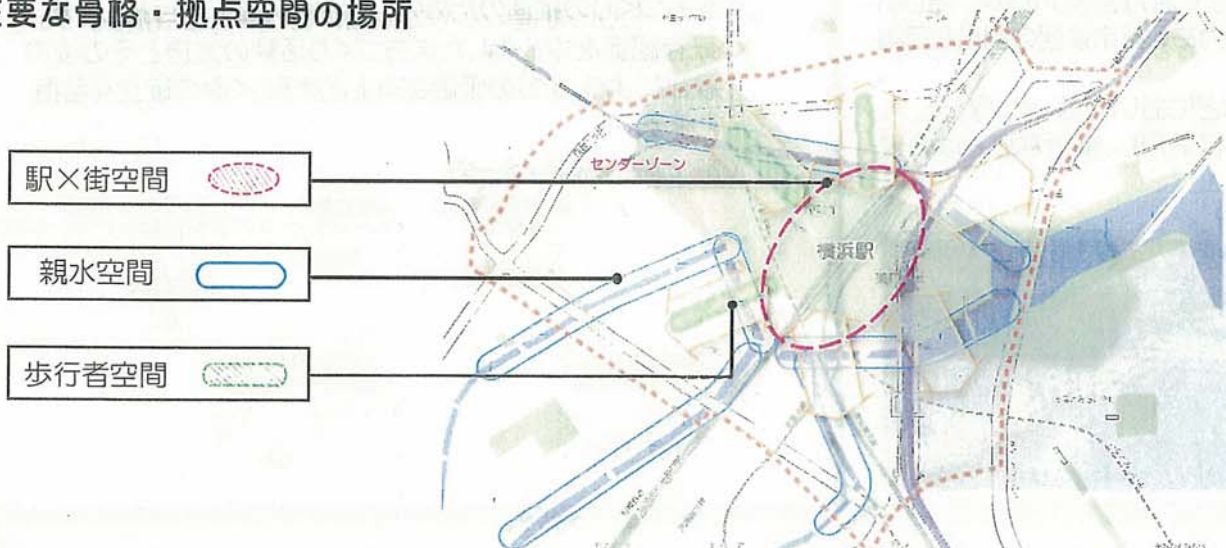
親水空間

貴重な水辺資源を活用しながら、環境豊かで憩い・賑わい（回遊）に満ちた、魅力と個性溢れる親水空間づくりをすすめていきます。

●魅力ある親水空間の創出

主要な親水拠点における、特性に応じた特徴ある空間づくりの推進

主要な骨格・拠点空間の場所



ガイドラインの運用

ガイドラインによる取組みを担保し、民間と行政が連携してまちづくりを継続的に進めていくためには、民間活力の発揮を促進する適切なインセンティブや、ルール及び運用体制の構築が必要です。

また、まちづくりの実現にあたっては、市民等の参画を得ながら実現していくことも重要と考えられます。

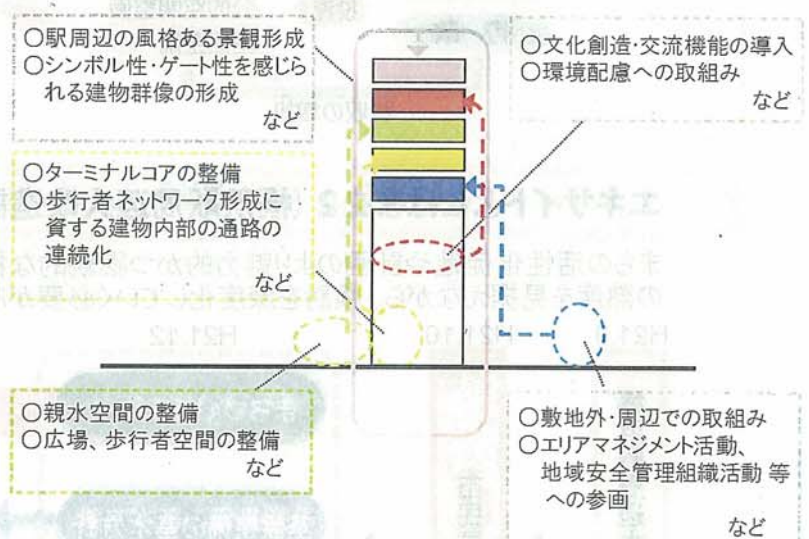
まちづくり貢献

まちづくりの取組みの中でも、適切なインセンティブが付与されるべき取組みとして以下のようなことが考えられます。

- 民間個別または行政のみによる従来の取組みでは達成することが困難な取組み
- 民間と行政が連携し各々の特性を活かすことにより、さらに効果的に行うことができる取組み
- 民間の知恵を活かした新たな事業機会や質の高い空間・機能を創出する取組み

民間による「まちづくり貢献」に対するインセンティブ

- 容積率の緩和
- 資金面での支援
(助成金、無利子融資など)
- 既存制度の柔軟な運用
及び独自の補助制度の検討



ガイドラインの担保と運用

必要に応じて地区計画等の都市計画や条例、要綱等による位置づけ、市・事業者間で協定を結ぶこと等により、ガイドラインに記載された取組みを担保することが考えられます。

そのためには、計画策定にあたった関係者が中心となり運用していくことが望まれ、まちづくりに必要な新たなルールの検討や開発の進展などによるまちの成長に合わせたガイドラインの更新などを進めていく組織が必要であると考えます。

まちづくりの進め方

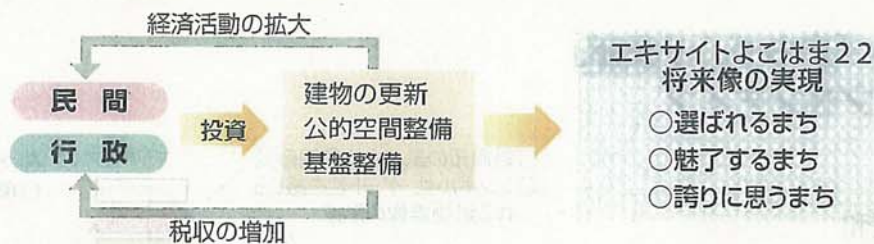
まちの成長とあわせた民間と行政の相互連携した取組み



事業の仕組み

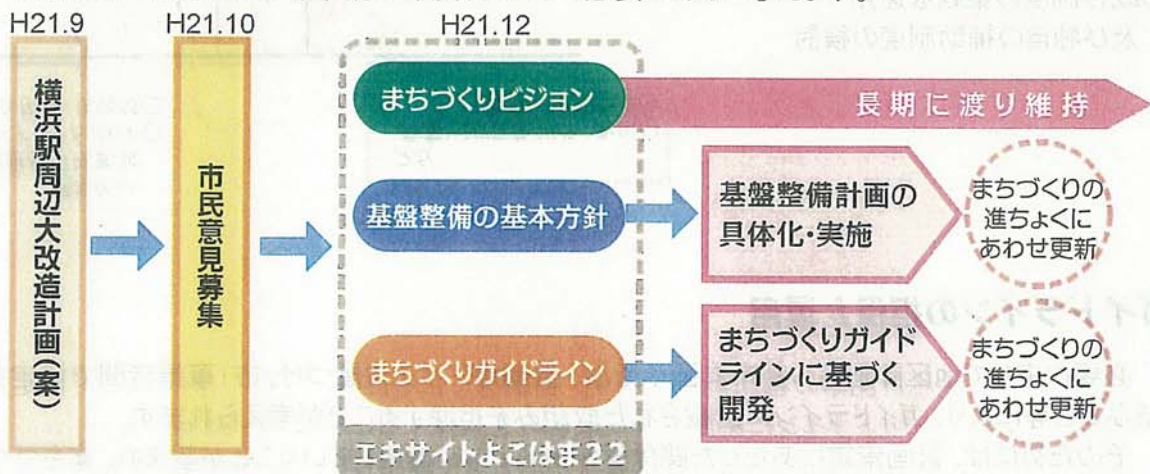
民間と行政は、本計画に掲げる将来像の実現に向け、それぞれ適切な役割分担のもと、連携・協働して、自然災害に対する安全性の向上、都市機能の強化や新たな環境の創造等に取り組みます。

これらの取り組みにより、横浜駅周辺が国際競争力を持ち、賑わいや活力のあるまちとなり、雇用が創出され、ひいては税収の増加につながるという考え方を基本に、行政と民間の双方の投資が横浜駅周辺において、循環、還元される仕組みを検討しています。



エキサイトよこはま22 (横浜駅周辺大改造計画) 策定の流れと今後の検討

まちの活性化促進や計画のより魅力的かつ継続的な推進のために、まちの発展・まちの開発の熟度を見据えながら、検討を深度化していく必要があると考えます。



このパンフレットは横浜駅周辺大改造計画づくり委員会が作成しました。

横浜駅周辺大改造計画づくり委員会事務局 横浜市都市整備局 都市再生推進課

〒231-0017 横浜市中区港町1-1

TEL 045-671-3857

FAX 045-664-7694

E-mail tb-yokoeki@city.yokohama.jp

http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/tosai/daikaizou

(平成22年4月1日以降は http://www.city.yokohama.jp/toshi/tosai/daikaizou/)



このパンフレットは資源の有効利用と環境保全のため再生紙と大豆油インクを使用しています。紙へリサイクル可